

麗しのサブリナ (1954)

SABRINA

| | |
|-------|------------------------------------|
| メディア | 映画 |
| ジャンル | ロマンス コメディ |
| 製作国 | アメリカ |
| 色彩 | B&W |
| 時間 | 113分 |
| 初公開日 | 1954/09/17 |
| 公開情報 | P A R |
| 映倫 | G |
| リバイバル | 2013/09/28 [マーメイドフィルム] デジタル・リマスター版 |

【解説】

サブリナ・パンツという言葉を生んだスポーティなオードリーのスタイルが、前作「ローマの休日」とはまた違って魅力的な、B・ワイルダー監督作（衣装のイーディス・ヘッドはオスカーを得た）。原作はS・テイラーの舞台劇。玉の輿路線は相変わらずだが、それが少女小説（マンガ）の永遠のテーマというもの。大富豪ラビー家のお抱え運転手の娘サブリナは、一家の次男デヴィッド（W・ホールデン）に失恋し、二年をパリの花嫁学校で送る。しかし、帰ってきた時には見違えるようなシックな令嬢となっており、デヴィッドをドギマギさせる。彼女に夢中な弟を心配した長男のライナス（H・ボガート）は仕事一筋のマジメ男だが、彼までサブリナの虜となって……というお話で、いささか歳は喰っているがボギーがやっぱり素敵。心優しい彼にサブリナならずとも結局、女性は夢中になるはずだ。パンツから艶やかなドレス姿に……。それはまさに現代のシンデレラ物語。有名なシャンソン“バラ色の人生”が主題歌。後に「サブリナ」としてリメイクされる。

【クレジット】

| | | |
|--------|----------------|---------------------|
| 監督 | ビリー・ワイルダー | Billy Wilder |
| 製作 | ビリー・ワイルダー | Billy Wilder |
| 原作 | サミュエル・テイラー | Samuel Taylor |
| 脚本 | ビリー・ワイルダー | Billy Wilder |
| | サミュエル・テイラー | Samuel Taylor |
| | アーネスト・レーマン | Ernest Lehman |
| 撮影 | チャールズ・ラング・J r | Charles Lang Jr. |
| 衣装デザイン | イーディス・ヘッド | Edith Head |
| 音楽 | フレデリック・ホランダー | Frederick Hollander |
| 出演 | オードリー・ヘプバーン | Audrey Hepburn |
| | ハンフリー・ボガート | Humphrey Bogart |
| | ウィリアム・ホールデン | William Holden |
| | ジョン・ウィリアムズ | John Williams |
| | フランシス・X・ブッシュマン | Francis X. Bushman |
| | マーサ・ハイヤー | Martha Hyer |
| | マルセル・ダリオ | Marcel Dalio |
| | ウォルター・ハンブデン | Walter Hampden |
| | ジョーン・ヴォーズ | Joan Vohs |

ネラ・ウォーカー
マルセル・ヒライヤー

Nella Walker
Marcel Hillaire